

御影堂

毎朝 6 時に東寺の僧侶は茶、米、果物、季節の野菜から成る食事を、真言密教を設立し、その死後は弘法大師として知られる空海（774-835）にお供え物をする。空海は東寺の別当を務めた間に御影堂を住居とした。この朝の儀式は一般公開されており、出席者は空海が中国から持ち帰った仏舎利の 1 つに触れることも許される。

御影堂は 1379 年に火事で焼け落ちたが、1390 年には完全再建された。御影堂は、その後の 1486 年に起こった火事で生き残った東寺の数少ない建物の 1 つである。その建築様式は宗教的というよりも世俗的で、平安時代初期（794～1185）の上級武士の館である書院造に近い。